

# 南九州最大規模の「食の供給基地」稼働により ‘食の安心・安全’ という品質、 365日24時間体制のローコスト物流を追求。

園田陸運株式会社 (垂水支部)



代表取締役 園田 純俊さん

## 園田陸運株式会社

本社/垂水市本城3705-2  
代表取締役/園田純俊  
従業員数/290名  
保有車両/155台



人と人の出会いを大切に育み、  
期待を超える提案型の事業展開をめざして。



垂水に本社を置く園田陸運はこの夏、鹿児島市七ツ島に敷地面積およそ1万平方メートルの「南九州物流センター」を竣工。延べ床面積約4500平方メートルの鉄骨2階建てには、常温・チルド・冷蔵の3温度帯の倉庫とトラックバース19基を備え、南九州最大規模の「食の供給基地」をめざし9月より稼働を始めた。病院給食やスーパーや外食産業の店配など、食品の総合物流をメインに展開してきた同社は、今年4月、福岡に開設した福岡二又瀬センターと南九州物流センター、九州の各営業所を連携して稼働することにより、365日・24時間、ローコスト物流の実現をさらに追求する。

「物を運ぶだけの時代は終わりました。20年近く前の売り上げと比べても、長距離の売り上げが売り上げの全体に占める割合は3割。

時流にあわせて仕事を切り替えていかないと」と園田純俊社長は語る。入庫から仕分け、出庫まで徹底した在庫管理システムを導入することによって‘食の安心・安全’という品質を保証し、また共同配送により低コストの物流を実現する。それらのシステムをもとに、提案型の営業展開を図るといふ。これからの物流に必要なのは、スルーから保管まで対応するセンターを活用して提案型営業ができる人材、システム管理ができる人材、センター運営のできる人材という。同社はこれまで、大手の外食チェーン、コンビニエンスストアなどの物流に携わってきた実績があり、時間厳守や場内ルール、挨拶、車両管理など、人材の基礎教育には自信があるが、センターに入るドライバーには再教育を行っている。社員教育の為にもまずトップが勉強を、という園田社長は常に情報収集を心がけ、全国の

同業者とのネットワークづくりに力を入れてきた。なかでも、十数年前から参画してきた「JFN（オールジャパンチルドフローズンネットワーク）」の会長・大園博史氏との出会いは、園田陸運の物流と視野を大きく広げた。「全国各地の同業者が参画しているJFNには知恵の集積がある」。問題に直面する度、大園会長に教を飛ばされながらもノウハウを学んできた。平成16年には全国171事業所の物流拠点をネットワークした食品物流の全国ネットワーク企業・JFNフードロジも立ち上げた。今回の物流センターはJFNフードロジの南九州拠点としても、大きな役割を担っている。

園田社長は知人から贈られた「人生は出会いがすべてである。心して大切にしたい」の書がお気に入りだ。「運送業は基本的に人と

人を結ぶ仕事。人の心をつかみ、期待に応える技術を持つことが大事」。だからこそ、顧客の期待を超えるような提案型の仕事をめざしているのだ。「センターという容れ物に、これから魂を込めるのは人。若い世代がこれからどう回していくか、ということもあります」。営業企画部長を務める30歳の長男・剛介氏らにも、今後、センターを効率的に稼働させるシステムづくりなど、新しい時代の物流に対する模索が課せられている。「額に汗、という時代ではない。脳みそに汗をかいて、仕事を創り出さなくては」。きびしい時代と言われる業界の中でも、創意工夫によって道は拓ける、という勇気を与えてくれる覇気に満ちた企業の姿がある。



ASPシステム、監視システムなどを導入するなど、徹底した品質管理を実現



福岡二又瀬センターに続き南九州物流センターが稼働



3S(園田・セーフティ・スピーディー)を表すロゴマーク



園田社長が大切にしている言葉



本社事務所